

北海道剣淵高等学校の行動計画(グローバル・アグリハイスクール宣言)

全国の農業高校の行動計画		学校において平成29年度に重点化する取組及び具体的方策		
「5つの基本方針」	「10の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	目標達成期間	具体的方策
I グローバル教育 で人材を育てる 学校	①「生徒一人一人を一層成長させる」教育を行います。	(1)毎時間の農業学習について、明確な目標を打ちだし、個々の生徒がやるべき内容を把握させる。	A	(1)授業担当者は、授業前に目標(目的)を生徒に確実に伝える。
	②「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。	(1)剣淵町の姉妹都市であるペルー共和国タルマ市の特産物キヌアの栽培を通して、世界に目を向けた学習を展開させる。	B	(1)作物の授業において実際にキヌアを栽培し、食文化や活用について学習する。
II 地域社会・産業に 寄与する学校	③「地域農業の生産を支える」教育を行います。	(1)町の特産物であるジャガイモやマメ類を栽培し、地域を理解するとともに、栽培過程を学習させる。	A	(1)特産物栽培を実施に行い、播種から収穫までの作業体系を体験し、理解を深める。
	④「地域の農業関連産業に寄与する」教育を行います。	(1)2年次における産業現場実習や農家委託実習において、地域産業の仕事に従事することで、地場産業の理解に努める。	A	(1)産業現場実習10日間、農家委託実習10日間において、農業関連産業に従事し、地域の農業理解や関連産業の重要性を理解する。
III 地球環境を守り 創造する学校	⑤「地球環境を守り創造する」教育を行います。	(1)温室栽培における冬季のハウス施設の暖房を節約(灯油の使用を抑制)する。	B	(1)冬期間は降雪時にハウスが倒壊しないよう最小限の暖房をかける。それ以外については、低温でも栽培できる植物を選択し、灯油使用料を極力制御する。
	⑥「食農」教育を推進します。	(1)農業教育の中で、栽培された農産物を実施に食することで、ものありがたみや食料を生産する重要性を理解させる。	B	(1)秋の収穫時には、栽培された農産物を実際に食する。農業の果たす役割や食を提供する素晴らしさを教授する。
IV 地域交流の拠点 となる学校	⑦「地域資源を活用する」教育を行います。	(1)町花エゾリンドウの増殖を図り、地域に町花を普及(公共施設への定植など)させる。	B	(1)播種から育苗、定植まで農業学習の中で学び、地域資源確保のため、増殖栽培を行う。
	⑧「地域交流の拠点となる」教育を行います。	(1)数多くの販売会を実施し、本校の教育活動を理解していただくと同時に、生徒と地域とのコミュニケーションの場として活動を展開させる。	B	(1)販売会ごとに希望生徒を募り、実際に生徒が生産した農産物を販売する。地域交流の拠点の場としてコミュニケーション能力を高める。
V 地域防災を推進 する学校	⑨「機関・団体と連携した」教育を行います。	(1)農業団体からの農業講演会の実施する。	A	(1)剣淵町内で活躍されている農業団体に講演を依頼し、地域農業への興味関心を高めるような講演会を実施する。
	⑩「地域防災を推進する」教育を行います	(1)定期的に防火査察を実施し、日頃から防災意識を高める。	A	(1)毎月1回必ず防火査察を実施し、万が一に備えた防災教育を推進する。

